

1. 評価報告概要表

作成日 2009年11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	1071100372
法人名	株式会社ティエムコーポレーション
事業所名	グループホームけやき
所在地	安中市中宿1-9-17 (電話) 027-380-5016

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年11月17日

【情報提供票より】(平成21年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	1日1,000円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 89 歳	最低 84 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	正田病院、須藤病院、さわやかクリニック、永山歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「尊厳・安全・自立・安心・自由」「地域社会の一員として、その人らしい暮らしが続けられる」を理念に掲げ、地域生活者として個々の暮らし方を大切にしている。それは、利用者一人ひとりに対する支援のあり方に反映され、なるべくおむつをせずトイレ誘導にて排泄する支援やそれぞれの要望に応じた外出等きめ細かなサービスで実践され、その結果利用者や職員の心と心をつなぐ信頼関係として実っている。さらに、開設当初より誤嚥予防に繋がる「嚥下筋力トレーニング」や筋力維持のため毎日の散歩を行う等介護予防の意識も高く、加えて近隣住民との関係性を重要視して日頃の散歩途中の交流や消防等の協力体制など地域生活者である利用者の存在を周囲に理解してもらい助け合いながら共存していく努力を続けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価内容を職員全員に閲覧し、課題や問題点をミーティング時に検討している。職員からの意見は少ないが意見をくみ取り、評価の意義を理解することは日頃のケアのなかで実践されている。施設についてはあり方についての話し合いはあるが、現状では玄関に施設が必要と判断され継続されている。また、同業者との交流の場を市内の研修会として捉え、広い視野での取り組みは課題として継続される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の各項目ごとの評価は個々の職員は行わないが、評価項目を職員全員に知らせ、課題や問題点をミーティング時に検討している。職員からの意見は少ないがくみ取り、管理者が自己評価の作成を行い、代表者による確認をしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>「ヒヤリハット」「嚥下障害」「防災」等毎回のテーマとして議題に挙げられてきている。「防災」については、地域の消防団長と団員を招き実際に避難訓練を実施、会議参加者には訓練を見学してもらい会議内で訓練内容の評価を行うことで、防災のあり方や利用者の状態、職員側の体制等の課題がうきぼりにされ、地域を含め関係機関の協力のあり方が再認識されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情、相談の窓口や担当者が表記され、玄関ホールには投書箱や苦情等の広報チラシが掲示されている。また、家族、利用者の出席する運営推進会議で意見要望を取り組む場面があるが、利用者と家族の関係や思いを直接聞くことで苦情になる以前に様々な話を受け止めることが大切と考え、日頃の関わりを重視している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、回覧板を通して町内の行事や動向を把握している。また、自治会行事の餅つきやお祭り等に参加して親睦を図っている。近隣の施設との交流もあり、納涼祭に招待され毎年参加してきている。また、隣接された農産物直売所に散歩に出かけ、花や農産物を見たり、近隣の人との会話を楽しむ場となっている。定期的に歌や踊りのボランティアが訪問している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に安心・安全等の5本の柱を理念に掲げ取り組み、地域密着型サービスとなってからは「地域社会の一員としてその人らしい暮らしが続けられるよう支援します」と地域生活を支援していくための事業所の役割やあり方、地域との関係性や方向性を捉えた事業所独自の理念を職員と共に作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理念の説明を行っている。月2回開催されるミーティングやカンファレンスで、支援場面の振り返りや事例検討時に支援内容等を通して理念の意味を理解し、支援に反映されているかを確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、餅つきやお祭り等の行事に参加している。近隣の施設との交流もあり、納涼祭に招待され毎年参加している。また、隣接された農産物直売所に散歩に出かけ、花や農産物を見たり、近隣の人との会話を楽しむ場となっている。定期的に歌や踊りのボランティアが訪問している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を職員全員に知らせ、課題や問題点をミーティング時に検討している。職員からの意見は少ないが意見をくみ取り、評価の意義を理解することは、日頃のケアのなかで実践されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、「ヒヤリハット」「嚙下障害」「防災」等毎回テーマを掲げている。「防災」については地域の消防団が参加して実際の避難訓練を実施し、参加者に訓練内容を見学してもらい講評をいただくなど、事業所の活動報告に止まらず意見や助言がもらえるよう工夫がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する連絡協議会時に行政説明が実施され、新型インフルエンザ対応や市内の行事予定の報告など情報提供がされている。また、他の施設の利用状況や事故の報告等の必要な情報が事業所に報告され、連携が深められている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「けやき新聞」を毎月発行してホーム全体の出来事を綴り、配布している。家族には月1度は事業所に来てもらい、利用状況を報告説明する機会を設けている。その際に個人別に作られた面会簿に連絡内容や持参品を記入し、家族間の連絡簿として活用している。健康状態は電話で報告を行い、受診等の承諾を得ている。預り金は使用内容がわかる領収書を保管して家族に報告し、清算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情、相談の窓口や担当者が表記され、玄関ホールには投書箱や苦情窓口機関の広報チラシが掲示されている。家族、利用者の出席する運営推進会議で意見要望を取り組む場面があるが、利用者と家族の関係や思いを直接聞くことで苦情になる以前に様々な話を受け止めることが大切と考え、日頃の関わりを重視している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所から2名の退職者がいたが、職員の業務引き継ぎに1~2ヶ月を費やし、新旧職員の業務や利用者との関係調整を図り円滑に移行できるよう配慮してきた。また、退職した職員が事業所を訪問し馴染みのある関係を利用者に継続できるような交流を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市主催の事例研修会が毎月開催され、勤務の調整を図り全員が交代で参加できるよう配慮している。内部研修は、ケア実践的な「嚙下予防」「じょくそう予防」等日々の支援に直接的に関わるテーマで実施されている。研修の報告は事業所内で「伝達講習会」を開催して、全職員の共有化を図っている。資格取得の意欲を職員が持ちチャレンジできるよう休日の調整等サポート体制ができています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の事例研修会に参加した際に、相互の情報交換を行っている。また、行事に招待される事業所との交流はあるが形式的な交流にとどまり、互いの資質向上に繋がるような交流とはなっていない。同業者間のネットワークのあり方を必要と事業所は捉えているが、実践するまでに至っていない。	○	事業者団体の協議会への加入や同業者で主催する連絡会などに参加することにより、事業所の置かれている地域福祉のあり方や事業所の指針を確認するなど、広い視野での事業所運営を実践していくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族とホームで面談し、利用に向けて馴染んでもらえるよう対応をしている。特に他の利用者との関係づくりに配慮したり、本人の特性を他の利用者に理解してもらったり、人間関係の調整を図り安心して生活が進行していけるよう利用者、家族と相談を重ね対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	庭に小さな畑があり作物を植えたり、草むしりや葉っぱ掃除などの共同作業を行いながら生活の知恵や工夫を教えてもらい、職員と利用者間の心の交流が図られている。支援の中でこのように多くの「気づき」があり、介護を通して成長させてもらっていると感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「～がしたい」「～が食べたい」「～に行きたい」等利用者の意向や要望を聞き取り、応えられる体制づくりを実践している。自己主張できない利用者には、職員が日頃の生活観察の中から感じているその人のことを汲み取り、その人の思いが達成できるよう、その人を理解しようとする職員側の姿勢を大切に考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者全員を対象にしたカンファレンスを毎月2回開催し、変化があれば別途話し合いの場をもっている。そこでの意見を基にケアマネージャーが介護計画を作成して、職員に内容を確認してもらっている。また、医師からもどのような対応が必要か職員に話があったり、利用者、家族には介護サービス計画書作成に向けて要望や意見を聞き、同意してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネージャーが中心になり介護計画に基づいた変化を定期的に記録し、把握している。その際に、変化の著しい利用者には、職員間でカンファレンスを行い、介護度の変更も含め、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りや選挙投票等利用者の要望を実現できるような支援を、職員の勤務体制や利用者の状態を見ながら実施してきている。また、家族と連携して通院を行うなど柔軟な支援を行っている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医の受診が行われている。また、協力医の月2回の往診があり、事前に「情報提供書」を提出し、看護師が利用者の状態を適切に伝えるよう慎重な対応を図っている。また、協力歯科医は代表者の親族で細かな要望に応じてもらえることができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化や終末期に伴う意思の確認書」を家族と取り交わし、入院を望むまたは看取りを望むかの確認を行っている。利用者の状態や家族の状況の変化に応じて確認は見直され、互いの共有化を図っている。内容は職員に報告されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員と「守秘義務契約」を結び、勉強会やミーティングを通して「尊厳と権利」が守られるような支援を行っており、支援上の言葉使い等の事例を挙げながら確認と改善を図ってきている。書類関係は事務所で管理し、職員はプライバシーについての意味を認識している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを鑑賞しない時間が決められ歌や会話を楽しむ時間を取り入れているが、個々にテレビを見たい人は自室で鑑賞したり、希望する特定の番組が放映される時間は要望に答えている。入浴の時間や順番の変更、食事時間の調整、起床時間の要望等その人の状態や望んでいるペースで暮らせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事となるようおはぎ、団子、おやきなど職員と一緒に作るメニューがあったり、下ごしらえを手伝うなど、利用者の参加する食事風景が見られる。テーブルで職員も同じ食事を味わいながら会話して、楽しく食べる雰囲気づくりを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月曜から土曜まで毎日準備し、順番やタイミングをみながら一人ひとりゆっくり入っていただけるよう支援している。入浴を拒む人、入浴の順番を気に掛ける人、失禁等で入浴が必要になった人等その人の健康面や情緒面の動向を把握しながら、利用者と職員の会話を大切にして入浴をしている。季節のゆず湯や歌いながらの入浴等楽しみになる工夫も取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の要望や特性を把握して、生活の中に楽しみが見出せるよう工夫している。歌を歌うことが好きな方には歌いかけて歌を披露してもらったり、歌や踊りのボランティアとの交流を楽しんだり、洗濯物の整理や雑巾縫いを手伝ったり、会議の時にお茶を出してくれるなど、生活の張り合いが生まれるよう役割や楽しみを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日いろいろな散歩コースでの散歩を取り入れたり、月1～2回ドライブ外出を行い、季節の花を楽しんだりしている。お弁当を持参して屋外で食べることや事業所の園庭でバーベキューをするなど希望者の屋外活動を支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない支援体制を実践してきているが、交通量の多い道路に面しているため、玄関は安全第一に考え常時施錠している。施錠については、家族、利用者に説明してきている。	○	施錠についての考え方が職員全体で検討され、その内容が更に家族、利用者へ報告され、理解された上で実践されてきているが、事業所のおかれた環境も含め、個々の利用者特性を捉えた検討を今後も継続されることを望む。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で地元消防団を招き防災訓練を実施した経緯もあり、地域の協力体制や職員の防災に対する意識の向上に努めてきている。また、事業所の設置地域が「水害地域」に指定されているため、河川の氾濫時における対応などが災害マニュアルに盛り込まれ、「河川氾濫時避難基本計画」が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は、カロリー計算された資料を参考に献立を作っている。また、入居時に嗜好の調査を行い、嫌いなメニューが出た場合には代替食で対応するなどの配慮をしている。毎食後、食事表と水分摂取表に記録され、体重の増減は入浴時にチェックして担当医に報告している。開設当初より食前に「嚥下体操」を欠かさず実施し、誤嚥防止や咀嚼力の向上に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	国道に面した場所に設置されているが、ホーム内は騒音が遮断され、静かな環境と吹き向けの高い天井で広く明るい空間となっている。居間兼食堂には食事用のテーブルが配置され、くつろげる場として大型テレビを見るスペースに置かれたソファースーツが憩いの場として活用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用前から使われてきた私物が居室の中に置かれ、ベッド利用に限らず、今までの生活に合わせた畳を敷き詰めた居室も配置され、個々の要望を取り込んだ環境となっている。また、利用する方のその人らしさを大切に捉え、居室の空間づくりも入居者の要望で備品や私物が配置されている。		